

2021年10月15日 金曜日

北陸圏・企業

空調更新CO2削減率40%以上を達成／ホテル環境補助申請2件が採択／環境設備勉強会中止で資料配付／日栄商事

2021-10-15 12面



日栄商事（本社・金沢市、中村哲郎取締役社長）は、例年10月に開催している第13回環境設備勉強会について、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、今年の開催を中止することに決めた。これに伴い、発表を予定していた同社の環境補助事業申請案件（21年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金）2件および同社が取り扱う東芝キャリアのビル用マルチ空調システム、パナソニック産機システムズの「ナノイーX」標準搭載業務用空調機の最新資料について取引先等に配布することとした。

環境補助事業申請案件では、金沢市内のホテルA（S造14階建て 1～2階共用部 3階～14階客室約460室）における既存吸収式冷温水発生器および冷却塔から空冷ヒートポンプチャラー（60馬力 3台2セット 冷房能力540Kw、暖房能力540Kw）への更新、福井市内のホテルB（S造8階建て 1階レストラン、2～8階客室約53室）における既存吸収式冷温水発生器からビル用マルチエアコン（ミニマルチ4馬力 9系統、5馬力 8系統）への更新計画を紹介。改修効果を検証した結果、年間ランニングコスト減少額はホテルAが約655万円 ホテルBが約103万円、CO2削減率はホテルAが約43%、ホテルBが約46%という高い効果が得られた。同社では「補助事業の要件は、CO2削減率30%以上とされるが、採択の最低ラインは40%以上と推測。今回、高効率機器を選定したことでCO2削減率の数値が大きく向上し、採択の可能性を高めた」としている。

東芝キャリアからは、ビル用マルチ空調システム「スーパーマルチαシリーズ」を紹介。大容量のトリプルロータリーコンプレッサー、部分負荷特性に優れたデュアルステートインバーター等最新技術の実用化等により、コンパクトと高効率を両立。20年度省エネ大賞経済産業大臣賞（最高位）を見事受賞している。

パナソニック産機システムズからは、「ナノイーX」標準搭載業務用空調機を紹介。オフィス店舗用エアコンやビル用マルチエアコン、ガスヒートポンプエアコンなどさまざまな納入事例が紹介され、幅広い施設で評価・納入が広がっている。

掲載されている記事・写真の無断転載を禁じます。著作権は北陸工業新聞社に帰属します。
Copyright (c) Hokuriku kogyo Shinbun